

## 第2学年 国語科学習指導案

対 象 2年1組 男18名, 女14名 計32名

指導者 南野 寿美子

- 1 単元名 組み立てを考えて, 発表しよう  
教材名 「あったらいいな, こんなもの」(光村図書 こくご2下)

### 2 単元について

#### (1) 児童について

本単元にかかわる既習事項について事前アンケートを行ったところ, 次のような結果となった。

質問項目	はい	どちらかという とはい	どちらかという といいえ	いいえ
伝えたいことを詳しく話していますか。	78%	13%	4%	5%
順番を考えて話していますか。	35%	47%	12%	6%
ゆっくりはっきり話していますか。	91%	3%	6%	0%
質問や感想を考えながら話を聞いていますか。	76%	11%	11%	2%
相手の話質問した感想を述べたりしていますか。	45%	25%	21%	9%

事前調査の結果から自分から発する会話は積極的にしていることは分かるものの, 相手の話を受けて反応することについては, まだ自信をもてないでいることが分かる。このことから, 本単元では相手の話を受けて受け答えをし, 適切に反応することを発達段階に応じて指導していくものとする。

#### (2) 教材について

本単元は, 「話すこと・聞くこと」の指導事項のうち, 特にイ「相手に応じて, 話す事柄を順序立て, 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。」, オ「互いの話を集中して聞き, 話題に沿って話し合うこと。」を取り上げて学習する。1・2年生での既習を踏まえ, 互いにアイディアを出し合うことでお互いの考えを深めることに適し, 目的をもった話し合いの仕方を身に付けさせ, 学習や生活の様々な場面で活用していく力が育つ教材であると考え。

#### (3) 指導について

本単元を魔法の道具について考えたことを説明する言語活動を位置付けて指導する。始めに教材文を参考に「あったらいいな」と思うものの発明・創造に興味をもたせる。最後の発表会を「魔法の道具発表会」にすること, グループでアイディアを出し合い魔法の道具を考えることを伝えゴールの見通しをもたせ意欲化を図る。

第二次では, 「あったらいいな」と思うものを「道具を考えた理由」「道具の働き」を中心にまとめることができるようにする。さらに, 魔法の道具をより具体的にするための話し合いの仕方を学び, 交流することでペア案を確立させていく。その際, 話す時の相手意識をもたせ, 発表する際には, 聞き手により分かりやすくするという目的を明確にしていく。

また, 話し合ったことをもとに発表の内容をまとめ, 発表の練習をさせる。どんなことをどんな順序で話したら, 聞き手に分かりやすいかを教材文を参考に考えさせる。発表はペアで行うが, 個人で分かりやすい順序に構成したメモを見ながら発表できるように練習させる。

第三次では, 発表会を行い, どの魔法の道具に対してもよさやおもしろさを見つけさせ, お互いの考えを認め合う場とする。評価ワークシートを作成し, 話し方・アイディア・チームワークなどの観点で相互評価を行い, 主体的な聞き手となるようにする。

### 3 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

相手に分かるように話したり、友達の考えた道具について聞こうとしたりすることができる。

(2) 話すこと・聞くこと

・考えた道具について、相手に分かるように話す事柄の順序を考え、声の大きさや速さなどに気を付けて話すことができる。(話すこと・聞くことイ)

・大事なことを落とさないように気を付けながら友達の話を聞き、感想を述べたり、質問をしたりすることができる。(話すこと・聞くことオ)

(3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

事物の形や働きを表す言葉の働きに気付くことができる。

### 4 指導と評価の計画

次	時	学習内容	国語への関心・意欲・態度	話す聞く能力	言語についての知識・理解・技能
小1		ふたりでかんがえよう 【これはなんでしょう】	問題作りを楽しみ、進んで話し合おうとしている。	話題に沿って話し合い、質問したり、答えたりすることができる。	物の特徴を表す語句を理解している。
		つたえたいことをはつびょうしよう 【大すきなもの、教えたい】	だいすきなものを伝えようとしている。	話す順序を考え、丁寧な言葉遣いで話すことができる。	内容を表したり、伝えたりする言葉の働きに気付いている。
一	1	学習計画を立てる。 【あったらいいなこんなもの】	魔法の道具を考えようとしている。		
二	2	「道具を考えたわけ」「道具の働き」などを考えてまとめる。	身近なことから想像を広げ、道具について考え話し合おうとしている。	自分の考えを詳しくするための尋ね方や対話の仕方を理解することができる。	道具を説明する語句を理解している。
	3				
	4	5 【本時】	友達と自分の考えた道具について話し合い、「はたきら」や「形」をくわしくする。	相手に分かるように話したり、友達の考えた道具について聞こうとしたりしている。	考えた道具について説明を聞き、質問をしたり感想を述べたりしている。
	6	話す順序や組み立てを考え、発表メモを書き、練習する。	発表会での発表の工夫を考え、練習をすることができる。	発表会での話し方聞き方を理解することができる。	発表メモの書き方を理解している。
	7				
	8				
	9				
	10				
三	11	声の大きさや速さなどに気を付けて、ペア案を発表し、友達の発表の審査をする。	相手意識をもちながら発表し、発表に対する質問や感想を述べるために注意して聞いている。	話す順序に気を付け丁寧な言葉で発表している。質問や感想を持ちながら聞くことができる。	丁寧な話し言葉について理解している。
	12				
	13				
小3		話の中心に気を付けて聞き、質問したり感想を言ったりする。 【よい聞き手になろう】	日常生活から話題を決め、適切な言葉遣いで筋道を立てて話そうとする。	話の中心に気を付けて聞き、質問したり感想を述べたりすることができる。	指示語の働きを理解し、適切に使おうとしている。

## 5 本時の指導

### (1) 目標

お互いの魔法の道具について話し合い、「はたらき」や「かたち」を詳しくすることができる。

### (2) 評価規準

評価の観点	評価規準
国語への関心・意欲・態度	相手に分かるように話したり，友達の考えた道具について聞こうとしたりしている。
話すこと聞くこと	考えた道具についての説明を聞き，質問をしたり，感想を述べたりしている。
言語についての知識・理解・技能	事物の形や働きを表す言葉の働きに気付いている。

### (3) 展開

段階	学習活動	●指導上の留意点 ◎評価
導 入  5 分	1 前時の想起	●前時までの学習を想起させ，単元の目的意識「魔法の道具発表会に向けての学習」であることと本時の目的意識「お互いの魔法の道具を詳しくするために話し合う」ことを確認する。
	2 課題の確認	
	友だちとまほうの道具について話し合い， 「はたらき」や「形」をくわしくしよう。	
展 開  30 分	3 課題の解決 (1) 課題解決の見通しをもつ。  (2) 友達と交流をする。  (3) 全体交流をする。 ・悩んでいる人 ・もっとよくしたい人	●話し手は，自分が考えた魔法の道具とあったらいいなと考えた理由を話すようにする。 ●聞き手は，相手の考えを尊重しながら，相手の話を受けて質問ができるようにする。特に道具の「はたらき」に関連した質問やアドバイスを対話させる。 ●生活班で交流し複数回やり取りをさせる。 ●それぞれのアイディアの共通点やおもしろさを取り入れたり，全体交流からヒントをもらって考えたりする。 ◎考えた道具についての説明を聞き，質問をしたり，感想を述べたりしている。 (発言・ワークシート)

	<p><b>【本時における目指す児童の姿】</b></p> <p>A) ○○さんの魔法の道具で、□□ができるというのがおもしろいなと思います。どういうしかけにすれば、□□ができるのですか？（質問）</p> <p>B) たとえば、△△が出てきて□□ができればいいなと思います。</p> <p>A) では、上のほうにかぎを取り付けて、使わない時はそれをぼうしで隠しておくのはどうですか？（提案）</p> <p>B) それはいい考えですね。（感想） やってみます。ありがとうございました。</p>	
	<p>(4) 自分の魔法の道具について見直す。</p>	<p>●友達との交流の結果、付け加えたり変えたりしたい「はたらき」「形」について見直しをし、ワークシートに書き込みをする。</p>
終末 10分	<p>4 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よかったこと</li> <li>・できたこと</li> </ul> <p><b>【振り返り 例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達がいろいろアドバイスしてくれてうれしかったです。（よかったこと）</li> <li>・友達の意見を聞いて「まほうのどうぐ」が詳しくなりました。（よかったこと）</li> <li>・話し方や聞き方のポイントに気を付けて楽しい話し合いができました。（できたこと）</li> </ul>	<p>●本時の学習を振り返り、感想を発表させ、友達のよさや自分の考えの深まりに気付かせる。</p>
	<p>5 次時の確認</p>	<p>●次時では、発表のためのメモを作る活動を行うことを確認する。</p>

(4) 板書計画

「まほうのどうぐ」はっぴよう会をひらこう  
あつたらいいな こんなもの  
かだい

友だちとのまほうの道具について話し合い  
「はたらき」や「形」をくわしくしよう。

こうりゆう  
手じゆん

①あいさつ ②じゆんばんをきめる。  
③まほうの道具を知らせる。  
④しつもんやアドバイスをする。  
⑤こうたいする。  
□ふたりで

どうして あつたらいい  
と思つたの？  
どうやってつかうの。  
この○○を。

この○○はなに？  
どうして□□が・  
名前はなんていうの？

□みんなで  
□見なおし  
ふりかえり

【話し方のポイント】

- ・まほうの道具の名前
- ・できること
- ・つかいかた
- ・まよっているところ

【聞き方のポイント】

- ・さい後まで
- ・あいづち・うなずき
- ・すごいなあ よく考えたね
- ・しつもん・アドバイス
- ・したら？ うはどうかかな？

へえ すごいな  
ぼくもほしいな  
よく考えた

・かんそうを言う力  
・アドバイスする力  
・あい手のことを考えて話したり聞いたりする力